



200号

2015 / 1 / 1

日中文化交流市民サークル‘わんりい’
東京都町田市能ヶ谷7-32-12 田井方
〒195-0053 TEL&FAX:042-734-5100
<http://wanli-san.com/>
Eメール:wanli@jcom.home.ne.jp
◆‘わんりい’ HPのアドレスが上記になりました。



「布袋さんの前で記念撮影をする一家」 2007年 杭州河坊街にて 撮影：満柏

河坊街は杭州の有名な観光地です。河坊街に行くときまず布袋さんが大きなお腹を見せ、笑って出迎えてくれます。中国では弥勒仏と呼んでいます、どう見ても日本の布袋さんです。実は、中国では布袋さんは弥勒仏の化身だと言われています。だれでもこんな姿の弥勒仏を見たらすぐハッピーな気分になりますね！

‘わんりい’ 1月号の目次は最終ページにあります。

Guò zé wù dàn gǎi
过则勿惮改

あやま あらたむ はばか なか がくじ
過てば改るに憚る勿れ〈学而第一〉

桜美林大学名誉教 / 孔子学院講師 **植田渥雄**



過ちを犯したら改めることをためらってはいけない。これがこの表題の意味です。孔子の考えからすれば、キリストの言うように人はみな生まれながらにして罪を背負っている、というわけではありません。したがって罪を懺悔する必要もありません。しかし人間は、時として過ちを犯すものである、何びともこの事実から目をそらすことはできない、これが孔子の考えの方の前提になっています。ではどうすればいいのか。過ちを犯したら改めればよい、ということになります。そして過ちを二度と繰り返さないようにする。できればそれに越したことはないのですが、そう簡単にはかないのが人間です。

孔子が最も期待していた弟子の一人に顔回という人がいましたが、不幸にも若くして亡くなってしまいました。その時、孔子を「噫！天喪予！Yi! Tiān sàng yǔ!」（あゝ、われ 天を喪せり）〈先進第十一〉と嘆かせたほどの人物でした。孔子はこの人物のことを「不才過 *bú èr guò*」（過ちを ふたたび 才せず）〈雍也第六〉と言ってほめています。最高と認める弟子をこのように評しているということは、普通の人ならば、過ちを繰り返すのは当たり前、ということになります。過ちを繰り返さないということはあくまで努力目標です。肝心なのは、それでもなお犯してしまった過ちを改めることができるかどうかということなのです。

孔子は次のようにも言っています。「过而不改，

是谓过矣。Guò ér bù gǎi ,shì wèi guò yǐ.」

（過ちて改めざる、是を過ちと謂う）〈衛靈公第十五〉。人が過ちから逃れられない存在である以上、過ちを犯すこと自体はやむを得ない。しかしその過ちを改めることができないならば、それこそが過ちである、ということです。また更に次のようにも言っています。「人之过也，各于其党。观过斯知仁矣。Rén zhī guò yě ,gè yú qí dǎng。Guān guò sī zhī rén yǐ.」（人の過つや、各々其の党に於いてす。過ちを觀て斯に仁を知る）〈里仁第四〉。過ちは単独で起こるのではなく、それぞれの人間関係の中で発生する。したがって、その人の過ちを観察すればその人の仁徳のあり方がわかる、ということ、つまり人がどういう過ちを犯し、それにどう対処したかによって、その人の価値がわかるというわけです。

さて、以上のような孔子の考えを支えた基本精神とはどんなものだったのでしょうか。「一言にして終身これを行うもの有りや」という弟子の問いに、孔子は「其恕乎！Qí shù hū!」（其れ恕か）〈衛靈公第十五〉と答えています。「恕」とは「ゆるす」という意味です。これが孔子の基本精神です。一方に過ちを「ゆるす」広い心がなければ、「改める」心も宙に浮いてしまいます。ここに孔子の心の広さ、温かさを見ることができます。

(わんりい「中国語で読む漢詩の会・講師」)

明けましておめでとうございます。

今年は未年です。本物の羊はおとなしいのに、未年は何かと波乱の多い年になると聞いたことがあります。これは、過去を振り返り、動物園の羊と対比して言っていることで、未来を予測する何の根拠もないのですが、昨今の世の中を見ると、なんだか耳を傾けたくなくなってしまいます。2015年は、どんな年になるのでしょうか。

年が改まると、特にあてがなくても、何かが始まるようなちょっとした期待感が湧いてきます。4月になると幼稚園や小学校に入園・入学するお子さん、お孫さんがおられるご家庭では、何時にも増して嬉しいお正月を迎えられたことでしょう。

数年前、北京に住む友人のお子さんたちが小学校に入学しました。北京では、9月が新学期ですから、時期は違いますが、やはり2、3ヶ月前から、準備が始まりました。先ず、どの学校を選ぶかが問題でした。北京でも最近では私立学校が設立されているようで、大学では、「あれは私立大学だ」と聞かされたことがあります。小・中高校については、未だその存在をはっきりとは確認していません。勿論、この友人の場合も、選択の対象は公立の小学校です。北京では、日本と違って、市役所から(最寄の)何処の学校へ入学するようにとの案内はないようですが、普通は近くの学校に入学します。

友人の場合は、家の近くの小学校が余り良くないので、少し遠い学校に通わせようと考えていました。そんなことが出来るのかと訊くと、簡単な試験があって、それに合格すれば入れるのだ、ということです。その試験は、一斉の入学試験ではなく、子供を学校に連れて行くと、学校がその場でテストしてくれるのだそうです。

その友人には、学齡の男の子と、1歳下に妹がいます。試験の日、二人を連れて行くと、学校の方が、二人を二卵性の双生児と勘違いして、妹の方にも試験を受けさせてくれたのだそうです。すると、妹も入学テストに合格してしまい、お兄さんと一緒にそ

の学校に入学することになりました。中国では「飛び級」が実施されていると聞いていましたが、これはスタートからの「飛び級」です。友人は、「学校の方が勘違いをした」と話していますが、私は密かに、友人本人の意図がそこにあったと睨んでいます。確かに、妹の方は、年齢に比べてしっかりしていて、何でもお兄さんと一緒のことが出来ていましたから、一年早く学校へ行っても困ることはないようです。

それにしても、学齡前の子供でも入学を許可するかどうか判断出来る試験とは、どんな試験なのでしょう。当時、友人に聞きそびれてしまい、後で、とても残念に思いました。

北京に行った時は、何時も本屋さんに立ち寄って、私でも読めるような本を探すのを楽しみにしていますが、前回、昨年9月に見つけた本は、幼児向けの成語の本です。その表紙にはこう書いてありました。《名牌小学入学必备成語》、日本語に訳せば、《有名小学校入学準備必携成語》となります。表紙にはほかに「《幼稚園教育指導要綱》及び《小学校カリキュラム基準》に基づき編纂」とも書いてあります。

色つきで、大きな漢字にピンインと四声が付いているのですが、収録された四字成句は、我々がよく目にする《四字熟語辞典》とほぼ同じものです。意味の説明・例文は、母国語とは言え、幼児には難しいように感じます。例えば、「自相矛盾」(自己矛盾する)の説明が、「自分の話の前後が衝突する」、例文が、「彼は考えることと言うことが一致しないので、話は何時も自己矛盾する」というものです。これが、幼稚園教育指導要綱に準拠しているのですから、驚きです。

学齡前の子供たちが、どれだけ理解出来るのかと思いましたが、ここで、植田先生のお話を思い出しました。孔子の頃の「口伝」と同じで、昔から伝わる四文字の組合せを先ず覚えさせ、意味や使い方は後から徐々に教えるのだらうと、勝手に考えると、この本の存在意義も納得出来ました。

洛陽の紙価を高める

三澤 統

私の調べた諺・慣用句 36

嬉しいことに最近ガソリン代が大分安くなりました。OPECが原油の減産をしないことにした為、供給量が十分になったためです。ご存じのように物の値段は需要と供給のバランスで決まるわけですが、大昔の中国の洛陽¹⁾で、“あること”が原因で紙の需要がやたらに増えたため、洛陽中の紙価が大幅に高騰したことがありました。今回のテーマ「洛陽の紙価を高める」はそのことをもとにした故事です。

“あること”の答えが、辞書に次のように載っています。

▲小学館デジタル大辞典：

「洛陽(らくよう)の紙価を高める 晋の左思²⁾が三都賦(さんとふ)を作った時、これを写す人が多く、洛陽では紙の値が高くなったという、『晋書³⁾・文苑伝』にある故事から、著書の評判がよくて売れ行きのよいことのたとえ。“市価を高める”と書くのは誤り。」

▲小学館日中辞典：

「洛陽紙貴 luò yáng zhǐ guì 洛陽の紙価を高める。書物が非常によく売れる。」

この成語の出自は〈晋書・文苑・左思伝〉です。

晋代の文学者の左思は、小さい時は大変腕白で勉強嫌いな子供でした。父親はいつもそのことに腹を立てていましたが、左思は全く気にせず相変わらずやんちゃで、勉強をしたがりませんでした。

ある日、左思の父親とその友人たちが世間話をしている中で、友人たちは、頭が良くて可愛い子供のいる父親を羨ましがりました。すると父親はため息をつきながら「全くあの子は話にならんよ、勉強もぜんぜんやる気が無いし、見たところ将来の見込みはまるっきり無さそうだね。」と言いながら顔に失望の表情を浮かべていました。実はこの様子を左思が一部始終を見

聞きしてしまいました。左思少年はとても悲しくなり、自分がしっかり勉強しないと確実に将来の見込みはないのだと自覚しました。そこで一念発起してこれからは一生懸命勉強しようと心に誓いました。

日が経ち、年が経って、左思は立派に育ち、勉学も懸命に続けてきましたので、遂に学識が深くて広い立派な人間となり、書き著わす文章も大変見事な出来栄えとなりました。彼は一年を要して「斎都賦」を書き上げました。これは彼の文学面での優れた才能を示し、彼の抜きんでた文学者の基礎を築いたのです。

この後彼は三国時代の魏、蜀、呉の首都の風土、人情、物産について述べる「三都賦」の著作を計画し、その内容、構成、言語等の諸方面について相当に高

い水準への到達を目指して、研究に専心し、著作に打ち込み、寝食を忘れて、まるまる十年をかけて、遂に文学大著「三都賦」を書き上げました。

「三都賦」は当時の傑出した著作となり大変な評判で、誰もが我先に読みたがりました。しかし、当時はまだ印刷技術が発明されていなかったので、「三都賦」の愛好者たちは競って書き写すことしか出来ませんでした。

そのため書き写す人が大勢になり、洛陽中の紙が不足してしまい、一時洛陽に於ける紙の価格が大幅に上昇したのです。

〈注記〉

- 1) 洛陽(らくよう)：中国河南省北西部の都市。洛河北岸にある。西周時代に都として建設され洛邑(らくゆう)とよばれ、漢代に改称、北魏・晋・隋・後梁・後唐などの首都。唐代には長安に対して東都とよばれ、経済・文化の中心として繁栄した。(デジタル大辞泉より)
- 2) 左思(さし)：生没年不明、一説に252～307年頃)は、中国西晋の文学者。
- 3) 晋書(しんじょ)：中国、唐の太宗の詔によって房玄齡らが撰した晋代の正史。130巻。貞観18(644)年成立。帝紀10巻、志20巻、列伝70巻のほか記載30巻がある。



イラスト 満 柏

前回では、楚の明君である文王が即位して、卞和の話信じて原石を割ったところ果たして前代未聞の素晴らしい宝玉が現れ、楚国は天下一の宝物を獲得しました。文王はそれを「和氏璧」と名付け、以来「和氏璧」は楚国の鎮国の宝として代々伝えられてきました。

四百年の後、戦国時代になって、楚国は威王が即位しました。ある日、威王は大きな華やかな式典を開き、「和氏璧」を令尹の昭陽将軍に賜ることにしました。令尹という役職は、春秋戦国時代の楚国の官名で、国の政務や軍事の最高決定権力を握る楚国の最高長官を指します。昭陽将軍は、楚軍を率いて魏国を破り越国を滅ぼし、楚国の領土を拡大し軍力を強め、春秋戦国の四方の国々へ楚国の威名を轟かせました。昭陽将軍は楚のために赫赫たる戦功を立てた大功労者なのです。

そこで威王は昭陽将軍の功労に報いるために、「和氏璧」という代々伝えられた国の秘宝を賜るという式典を催し、昭陽将軍に言いました。

「そなたは国のため大変な功績を立てた。これからも、国の諸々を君に頼ることになろう。この楚の国宝をしっかり守って、楚国のために力を尽くして欲しい」

昭陽将軍は、恭しく貴重な宝物を威王の手から授かり、感動に声を震わせて威王に誓いました。

「大王様、私は将軍の務めとして、やらねばならぬことを為したまでです。にも拘らず、このような大きな栄誉を頂き、身に余る栄光と存じます。私は必ず大王様の期待に背かぬよう、大王様と国のために、最後の最後まで我が忠誠心のありったけを以て尽くします」

国の宝物を恩賞として授与された昭陽将軍を羨む人がいれば、妬む人もいます。しかし、昭陽将軍は和氏璧をまるで神を守るかのように愛おしみ自分の命よりも大切に扱い、他人の目に容易に触れさせないようにして厳重に自宅の奥深く保管していました。そして嬉しいことがあった折や深い悩みごとにぶつかる度に、和氏璧に自分の心の内を語りました。

さて、そんな風にして時が過ぎ、昭陽将軍が和氏璧を得て早や一年になりました。ある日、昭陽将軍は威王と国事を相談し終えて退室する前に威王に言いま

した。

「大王様、願いが一つあります。和氏璧を頂いて間もなく一年になります。この間、周りの親戚、友人、同僚たちからいつも「和氏璧」を鑑賞させて貰えば、自分たちにとってこの上もない光栄だと言われ続けています。丁度一年になるのを機に、我が城で宴を開き、人々を招待して「和氏璧」を皆に披露して、楚国の国宝の素晴らしさを見て頂くのはどうかと思っております」

威王が答えました。

「良いとも。我が国が誇る宝物を皆に見てもらおう機会にしよう」

昭陽将軍は威王の承諾を得ると、赤城で盛大且つ華やかな宴会の準備を始めました。赤城とは、楚王の行宮でもあります。赤城の周りを青々とした山々が囲み、それらの山々には珍しい草花が一年中咲き誇り、珍しい動物も出没するという実に美しい景勝地であり避暑地でもあります。山の中には大きな深い湖があり、木々の影を映した湖水は透き通り、様々な種類の水草が生えて色々な魚が生息しています。・・・その湖のほとりに面して金色に輝やく眩いばかりの楼閣が建ち、ひときわ人の目を惹いています。

一か月の準備を経て、いよいよ宴会が開催される日になりました。将軍の友人たちや親族一同、そして同僚たち約100人が、豪華な馬車に乗って次々と赤城に着くと、湖畔の楼閣の宴会場に入りました。楼閣を巡る縁側に立つと、遠くには蜿々たる山々が連なり、眼下には青々とした湖水が広がっています。えも言われぬ美しい風景を目前にして、人々はそれだけでも陶醉するほどですが加えてその日は、楚国の希世の宝物を見せて貰えるのだと思うと、楼閣に集まった誰もわくわくと天にも上る気分になっていました。

いよいよ宴会が始まる時間になり、皆は宴会の座席につきました。後にご馳走を待つだけでしたが、将軍は一つの席が空いているのに気づきました。そうです。きっと誰かが体の具合が悪くて、来られないのかもしれない。もう一人招いてこの席に着けば、用意した100の席が満席になり、華やかな宴会は円満になる

ではなかと将軍は考えました。

昔、貴族や、身分の高い人の家は、門人を養う風習がありました。当日は将軍家の門人たちが多数、この宴会を準備するために来ていました。将軍はあれこれ考えた末、門人の一人である張儀を呼ぼうと決めました。張儀は将軍の家に来てまだ長くはありませんが、戦国時代の有名な思想家・鬼谷子の弟子といわれ、大変な学問と謀略の持ち主です。「そのような門人を紹介できれば、自分としても鼻が高い」と将軍は考えました。

宴会が始まりました。豪華な料理や美味しい酒が次々と運ばれて来て、宴席の人々はそれぞれ食べたり飲んだりしながら、宴会の一番重要な時刻を待っていました。そしてとうとう、その時が来ました。昭陽将軍は「和氏璧」を入れた箱をしっかりとって人々の前に出ました。そして箱の蓋を開け、「和氏璧」を幾重にも包んだ絹の布を一枚一枚とほどいてゆきました。最後の布が解かれると言葉では何とも表現できないような白く眩い宝玉が皆の目の前に現れました。

将軍が言いました。

「皆さん、今日はとても素晴らしい日です。私は一年前に大王よりこの楚国の最高の宝物「和氏璧」を下賜されました。然し「和氏璧」は本来楚国のもので、この席を設けて皆さんに披露する機会としようと思います」

人々は伝説の宝物が目の前に出されたと聞いて、縦立ちになり我先に鑑賞しようと騒ぎ立てました。将軍は「皆さん、争ってはなりません。これから宝玉を順番に回してゆっくり皆さんに見てもらおうと思っています」と告げ、自分の近くの一人に「和氏璧」を手渡して順に回すように指示しました。

和氏璧は手から手へと手渡されました。誰もよくよく眺めていたいと思い、自分のところに来た和氏璧は、手放したくなく、ゆっくりした時間の中で手渡されてゆきました。

とその時、天気が突然急変し、黒い雲がごんごん広がる。と、楼閣を囲む森から、身に沁みるような冷たい風がヒュウヒュウと吹き始め、あっという間に大粒の雨がざあざあ降り始めました。そればかりか、先ほど鏡のように静かだった湖水は奇妙な力で掻き回されているように、みるみる内に高く湧き上がり始めました。さらによく見れば、なんと水中にはこれまで誰も見たことのないような大きな金色の魚が、たくさんの五色の魚に囲まれてぴょんぴょんと次々高く跳び上がっているのです。宴に参加していた人々はこの目の前の風景に呆気に取られて呆然と見とれました。

「ほら！あの金色の大魚は伝説に聞く魚の神様じゃないか！」

誰かがそう言うと、人々は殿内を離れ、楼閣の縁側に駆けつけて湖の奇観を見に行きました。激しい雨が降り、強い風が吹き荒れ、湖の魚が跳びはねるといふこの奇怪な光景が暫く続くと、突然嘘のように風が止み、雨が止み、湖も静まり返りました。



人々はワイワイ議論しながら殿内に戻り、席に着き、再び杯を手に酒を飲みながら和氏璧の鑑賞を続けようと思いました。しかし、長い間待っても、和氏璧は回って来ませんでした。

「将軍、わし等は宝物をまだ見ておらんぞ」

「なに？ さっき君たちが持っていたではないのか？ 宝物を見たのを忘れたのか！」

「そうだ。そうだ。さっきはどこまで回ったのか？ 今は誰の手にあるのか」

人々は騒ぎ始め、互いに手を広げて見せたり、頭を振りあたりするばかりで、「和氏璧」は忽然と消えてしまったのです。人々を見回す昭陽将軍の顔は段々真っ白になって行きました。

「誰が大胆にも、楚国の宝物を盗もうというのだ！ 誰か来い！ 今から、誰もここを出てはならない！ 一人一人の身体検査をしろ！」

(続く)

前号に引き続き「滄浪亭」の“滄浪”から始めたい。蘇州市の四大名園の一つである滄浪亭の名称の典故は、「楚辞」の中にある屈原の「漁夫」からだとして紹介した。この「漁夫」は、前号で書いたように屈原が讒言に遭い江南の地に追いやられ、行くあてもなくさまよっていた時に会った漁師との問答である。この時のやり取りを日本語で再現すると……。

一見る影もないほどやつれ果てた屈原に出会った漁師は、この人物を高官の地位にあった屈原とわかり彼に呼びかけた。

〈漁師〉あなたは三閩太夫様ではありませんか。なぜこのような処においでですか？

〈屈原〉世の中はすべて濁っている中で私独りが澄んでいる。人々すべて酔っている中で、私独りが醒めている。それゆえ追放されたのだ。

〈漁師〉聖人は物事に拘わらず、世と共に移り変わると申します。人々がすべて濁っているならば、なぜご自分も一緒に泥をかき乱し、波を立てようとなさいませぬか。人々がみな酔っているならば、なぜご自分も(酒糟を喰らい)糟汁まで啜ろうとなさいませぬか。なぜまた深刻に悩み、高尚に振る舞って自ら追放を招くようなことをなさったのですか。

〈屈原〉「髪を洗ったばかりの者は、必ず冠のチリを払ってから被り、湯浴みしたばかりの者は、必ず衣服をふるってから着るものだ」と聞く。どうして

この清らかな身に汚らしいものを受けられようか。たとえこの湘水の流れに身を投げて魚の餌食となろうとも、どうして純白の身を世俗のチリにまみれさせることができようか。

一漁師はにっこりと笑い、櫓を操り次のように歌いながら漕ぎ去った。

〈漁師〉滄浪の水が澄んでいるなら冠の紐を洗えばいい。滄浪の水が濁っているなら自分の足を洗えばいい。

以上であるが、最後の漁師の言葉を原文で綴ると、

滄浪之水清兮

可以濯吾纓(冠のひも)

滄浪之水濁兮

可以濯吾足

となる。伊藤博文はここから引用し、「滄浪閣」と命名したわけである。この故事から、「何事も自然の成り行きに任せて身を処するべきだ」ということが読み取れよう。明治維新後の国内政治体制がまだ未完成の状況で、博文は確固たる信念を持ちながらも多くの意見を受け入れ柔軟に事に当たるべきだ一との気持ちが汲みとれるのではないか。その気持ちが別荘の名称に反映されているのではなかろうか。

ところで屈原は楚のために粉骨砕身したのであるが、最終的に絶望し汨羅の淵に身を投じたと言われている。端午の節句に食べる粽や龍船競争がこの故事を由来としているのはご承知の通りである。汨羅の淵であるが、私は岩陰の水が深く淀んでいるような、あるいは身投げから連想すると滝壺のようなイメージを持っていた。しかし、2013年12月町田市在住の平島克子さんの絵画展が町田市民ホールで開催されていたが、平島さんが描かれた絵を見ると私の想像と全く異なる汨羅の情景が描かれていたのである。お尋ねしたところ実際にこの地に行かれて描かれたとお話された。その絵はゆったりと流れる普通の川であった。なお、「汨羅」は湖南省に



顔真卿の書といわれる闔閭の墓

ある汨羅江の下流にある街である。汨羅江は湖南省北東部を西流し、最終的に洞庭湖(中国で3番目に広い湖)に流れ込む湘江の下流域に流れ込む河川である。

さて、蘇州市の観光には市内から北西に5kmのところにある「虎丘」を外すわけにはいかない。虎丘とは、越王・勾踐との戦いに敗れた呉王・闔閭(生年不詳～BC.496年)が葬られた小高い丘である(このあたりの事情は198号を参照ください)。当初この丘は海湧山と言われていたが、葬

儀の三日後、闔閭の陵墓に白い虎が現れその墓を守ったとされる言い伝えにより虎丘と改名されたとか。丘の頂上には「雲巖寺塔」がどっしりとかつ気高く聳えている。西暦961年創建(宋代)の蘇州最古の塔である。この塔は実は今から約400年前から地盤沈下し始め、徐々に傾いてきたのである。ガイドブックにより多少異なっているがおよそ4度近く傾いていて肉眼ではっきりとわかる。斜塔といえばイタリアのピサの斜塔が有名であるが、雲巖寺塔は東洋の斜塔と言われているようだ。八角形の七重の塔でレンガ造りである。千年以上の歳月を感じさせる佇まいである。高さは47メートルあり遠くからでもよく見える。ちなみにピサの斜塔は55メートルで傾斜は3.99度だそう(最大で5.5度傾いていたそうであるが工事により現在の傾斜に戻った)。

頂上からすこし降りたところにこじんまりした池がある。「剣池」という。そこが闔閭の墓である。池のそばに大きな石があり、そこにタテ書きで大きく楷書で「虎丘剣池」と彫ってあり赤く塗られている。唐代の書家・顔真卿(709年～785年)の書である。



雲巖寺塔の前で

彼は書聖と言われる王羲之(303年～316年)の流麗な書法に異を唱え、力強い楷書体を提唱した人物である。この剣池という名称であるが闔閭の埋葬時に、息子の夫差が剣を愛した父のために三千もの宝剣を一緒に埋めたところからこの名がつけられたという。なぜその地が池になったかということであるが、その点については後の始皇帝(BC.259年～BC.210年)や三国時代の呉の孫権(182年～252年)が、その宝剣を捜して掘った跡が池になったともいわ

れている。この丘は他にも見どころのあるところが多く、これから行かれる方は事前に調べて行かれることをお勧めしたい。

それでは息子の夫差はどこに埋葬されたのだろうか。臥薪嘗胆のところで書いたように勾踐はBC.473年、ついに呉の首都・姑蘇城(姑蘇は蘇州の当時の名)を陥落させた。夫差の首を刎ねるべきと強く進言する者がいたが、勾踐は夫差が以前自分の命を助けてくれたことから、甬東の島(現在の浙江省・舟山諸島)に流し、そこで余生を過ごすように情けをかけたのである。夫差も勾踐も根はやさしい男であったのであろうか。しかし夫差は勾踐の厚情を丁重に断り、「伍子胥に合わせる顔がない」と自らの首を刎ねさせた(BC.473年)という。勾踐は夫差を手厚く葬ったそう。その場所をいろいろ調べたがよくわからない。1983年に湖北省の江陵県で夫差の矛が出土したそうであるが、そのあたりを陵墓とみるには江陵県は蘇州からあまりにも遠すぎる。私はやはり虎丘の父の墓に合葬してやっと思いたい。いまから2500年も前の、遠い遠い出来事である。

東洋のベニスと言われ、水の都・蘇州市については、4回にわたり寄稿してきたが締めくくるに当たり懐かしの歌を登場させたい。言うまでもなく「蘇州夜曲」である。昭和15年(1940年)に作られたというから、今から75年も前の歌である。作詞は西条八十、作曲は服部良一の名コンビである。西条八十(1892年～1970年)48歳の時の歌詞であるが、実際に彼は蘇州に行ったことがあってこの詞を書いたのであろうか？ または童謡「月の砂漠」のように自分のイメージで書き上げたのであろうか(月の砂漠の記念碑は九十九里浜の海岸にある)。「蘇州夜曲」は李香蘭(山口淑子)の歌唱を前提に作曲され、彼女が主演の映画「支那の夜」の劇中歌として発表された。「支那の夜」では、李香蘭は昭和史を飾る美男俳優として一世を風靡した長谷川一男と共演した。この映画では、彼女は中国人の女性として出演し、長谷川一夫が扮する日本人の貨物船船員と恋に落ちるストーリーとなっている。私は子供のころ、李香蘭ではなく渡辺はま子



蘇州駅

が甘く切なくこの歌を歌っていたのをはっきりと記憶している。今思い返せば蘇州夜曲が私に中国という国に興味を持たせ、寒山寺のイメージを作り上げさせたのかもしれない。李香蘭は昨年9月7日に惜しまれながらこの世を去った。享年94歳であった。李香蘭の冥福を祈りながら、蘇州に思いを馳せたい。

(この項おわり)

中国の笑い話 21 (「365夜笑話」より)

第56話：夢の中で靴を売る

ある日、一人の男が、夢の中で素敵な皮靴を手に入れた。隣人が来て彼に尋ねた。

隣人「それは良い皮靴だね。私に売って欲しくないかね？」

男「値段によっては売っても良いよ」

隣人「いくらなら売るんだい？」

男「12元なら売ろう。」

それから、二人の間で値段の交渉が始まった。隣人が7元、8元と値を上げて、9元まで来た時、男はフッと夢から醒めてしまった。見ると、靴も無いしお金も無い、靴を欲しがった隣人もいない。男は急いで目を閉じて、叫んだ。

男「9円で売るよ。早くお金を持ってきてくれ！」

第57話：鬼は怖くない

ある日、父と子供が山へ遊びに行った。子供は嬉しくて、山のあちこちを駆け回った。父親は、子供が怪我をするのではないかと心配して、子供に言った。

父親「この山には鬼がいるから、早く帰った方が良い。早く帰ろう」

子供「僕は鬼なんか怖くないよ。パパ、忘れたの！ 隣のおじさんとおばさんは、パパのこと、ギャンブル狂(賭鬼)と言うし、ママは僕のこと悪戯っ子(小鬼)と言うし、おばあちゃんはおじいちゃんのこと煙突(煙鬼=ヘビースモーカー)と言うし、パパだってママのこと喧嘩した時には「ばか者」(死鬼)って言うでしょ。僕は毎日鬼に囲まれて生活しているんだよ。鬼なんかへっちゃらなんだ」

第58話：準備よし

ジョンは勉強に身が入らず、試験で良い成績が取れなかった。お父さんが烈火のように怒るのが分かっていたので、ジョンは、お兄さんに電報を打って、お父さんに前以て試験の結果を知らせを伝えてもらい、余り酷く叱られないようにして貰おうとした。次の日、ジョンはお兄さんから電報を受取った。電報には「お父さんは、凄く怒って、たっぷり叱る準備が出来た。お前もしっかり叱られる準備をしておくように」と書いてあった。



(有為補訳)



皆さん、こんにちは。鄧仁有です。

月日の経つのは早いものです。また新年を迎えました。

明けましておめでとうございます。

「メイプルタウンフェスタ2005が去る11月12・13日に盛大に行われました。期間中の2日間、私は町就業改善センターの調理室で中国料理の一つ刀削麺を作り来場者に試食してもらいました。」

前日食材などの準備をしました。殆どは町で用意しましたが、八角や紹興料理酒など

の中華調味料は十和田市まで行って購入しました。

12日の朝、就業改善センターで準備を始めました。刀削麺は何回も作っているのですが特別に心配はありませんでしたが、今回は2日間での量がかなりあるし、1日で100人分ぐらいを作る予定を立てました。最初に考えたのはせっかく用意するのに、もし試食者が少なければ、一番困るということでした。先ず小麦粉をこねて生地を作りました。生地が出来てからトマトとお肉の二種類のタレを作りました。試食がスタートすると試食者が続々と集まり削るのは結構忙しかったです。一本一本夢中に削るから、知らない内に、準備したタレがなくなっていました。でもまだ多くの試食者が待っていたので本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

翌日には初日の経験を踏まえて、生地など多めに準備しました。7キロも生地も作りました。試食者の列まで出来て、この日は100人を超えて予想以上の好評を得ました。試食中に多くの友人や知り合いなどがわざわざ挨拶してくれて、嬉しくてたまりませんでした。その後も皆さんからタレの作り方について聞かれました。ある方が「以前にど

こかで腰の強いうどんを食べたことがありました。今の刀削麺も腰があって美味しかったです。」と誉めてくれました。

この期間中に担当者は許可をもらったり、チラシの作成などに尽力しました。周りの方々も忙しい中に手を貸してくれました。特に最近中国から初来日の女性一人がボランティアで苦勞をいとわず2日間に渡りずっと手伝ってくれました。本当にありがとうございました。

皆さんもこの正月にたまにお家で手作りの中華料理を作ってみたら如何でしょうか。実は中国で刀削麺を作る時には専用の刀があります。もちろん使いやすいし本場のものが出来上がります、しかし皆さんはその刀をもっていないと思うので、手を切らないように注意して普通の包丁を使ってもいいと思います。この刀削麺のほかにも餃子や麻婆豆腐など中国料理のレシピが有るので、文化ホールまでお問い合わせください。または2月8日午後6時からの中国講座の時に料理を作りますので、良ければご参加ください。ご連絡をお待ちしています。

それでは、また会いましょう。



実演中の鄧さん

「鄧さん頑張る・日本探検記」は、2004年(平成16年)から2006年(平成18年)の2年間、青森県六戸町の国際交流員として国際友好活動にかかわった、中国山西省太原市に住む一中国人・鄧仁有さんの日本体験です。文章は原文のままです。

詩人^{いんせりん}尹世霖の童詩の世界⑨

金子總子・訳

jiǎn chuāng huā
剪窗花

hóng guāng zhǐ shǒu zhōng ná,
红光紙，手中拿，

jiǎn ya jiǎn chuāng huā
剪呀剪窗花…



cǎi qí yī miàn miàn,
彩旗一面面，

tiān ān mén shàng chā。
天安门上插。

jiǎn ya jiǎn de hǎo,
剪呀剪得好，

zǔ guó fàng guāng huá。
祖国放光华。



lǜ guāng zhǐ shǒu zhōng ná,
绿光紙，手中拿，

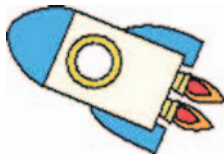
jiǎn ya jiǎn chuāng huā
剪呀剪窗花…

shān pō céng céng lǜ,
山坡层层绿，

qú shuǐ rào shān yá。
渠水绕山崖。

jiǎn ya jiǎn de hǎo,
剪呀剪得好，

qīng shān pī lǜ shā。
青山披绿纱。



lán guāng zhǐ shǒu zhōng ná,
蓝光紙，手中拿，

jiǎn ya jiǎn chuāng huā
剪呀剪窗花…

wèi xīng guàng yín hé,
卫星逛银河，

xīng xīng bǎ yǎn zhǎ。
星星把眼眨。

jiǎn ya jiǎn de hǎo,
剪呀剪得好，

qí kuā kē xué jiā。
齐夸科学家。

huáng guāng zhǐ shǒu zhōng ná,
黄光紙，手中拿，

jiǎn ya jiǎn chuāng huā
剪呀剪窗花…

tài yáng jīn càn càn,
太阳金灿灿，

huā r yǐng cǎi xiá。
花儿映彩霞。

jiǎn ya jiǎn de hǎo,
剪呀剪得好，

xiǎo péng yǒu shì xiàng yáng huā。
小朋友是向阳花。



窓飾りを鋏で剪る

赤い蠟紙 手に持って

ハサミで剪る ワアーイ 剪紙細工の窓飾り

色とりどりの旗が 何本も何本も

天安門に 挿してある

ハサミで剪る その剪り方は素晴らしい

祖国は 輝かしい光を 放っているよ

緑の蠟紙 手に持って

ハサミで剪る ワアーイ 剪紙細工の窓飾り

緑色の山なみは 幾重にも連なり

疎水が山をめぐっているよ

ハサミで剪る その剪り方は素晴らしい

山々は 緑のうすぎぬを 羽織っているよ

藍色の蠟紙 手に持って

ハサミで剪る ワアーイ 剪紙細工の窓飾り

人工衛星が 銀河をお散歩すると

お星さまが ウィンクするよ

ハサミで剪る その剪り方は素晴らしい

みんなが 科学者を 讃えているよ

黄色い蠟紙 手に持って

ハサミで剪る ワアーイ 剪紙細工の窓飾り

お日様は 燦々と輝き

お花は 色とりどりの霞に映える

ハサミで剪る その剪り方は素晴らしい

ボク達みんなは ひまわりの花だよ



梅花

běi fēng hū hū guā,
北风呼呼刮，

mǎn tiān fēi xuě huā。
满天飞雪花。

niǎo r bù chū wō,
鸟儿不出窝，

gǒu xióng dōng mián la
狗熊冬眠啦。

yī qún xiǎo wá wa,
一群小娃娃，

yǒng gǎn pǎo chū jiā,
勇敢跑出家，

yíng zhe fēng xuě xiào,
迎着风雪笑，

chuān zhe fěn guà guà
穿着粉褂褂。

āi ya ya,
哎呀呀，

nà bù shì xiǎo wá wa,
那不是小娃娃，

shì yī shù là méi huā。
是一树蜡梅花。



梅

北風が ビュービュー吹いて
大空いっぱい 雪が 舞う
小鳥は 巣から 離れない
月輪熊は 冬眠してしまったよ

ひとかたまりの こどもたちが
勇敢に 家から駆けだして
風に舞う雪を迎えて 笑っている
白い上着を まとっているよ

アララララ...

それは こどもたちではありません
一株の梅の花でした



‘わんりい’ は、いつでも新入会を 歓迎しています。
新年度（4月）入会年会費：1500円 入会金なし
郵便局振替口座：00180-5-134011 ‘わんりい’
途中入会申し込みの方は、入会時期によって割り
引かれますので、下記へお問い合わせください。

‘わんりい’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。入会されると

①年10回(2月・8月を除く)おたよりをお送りします。

②‘わんりい’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100（事務局）

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりい’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついででの折に田井にお渡し下さい。

日本人は本当に幸せか

陽光新聞社・顧問
塩澤宏宣

‘わんりい’の会員の皆様、あけましておめでとうございます。今年もつたない拙文を投稿させていただきます。よろしく願いいたします。

過日の読売新聞に、「ブータン人 本当に幸せか」というタイトルがありました。ブータンといえば「国民総幸福(GNH)」で有名な国です。ヒマラヤの谷あいにある首都ティンプーは標高2400メートルにあり、九州と同じぐらいの面積に約74万人が住んでいます。人口の6～7割位が農業に従事。仏教に基づく伝統的価値観で生活している国です。

その平和なブータンが最近危機感を覚えているそうです。外国文化が流入し、急速に国際化しており、麻薬などの犯罪が増え、失業者も増加しつつあるとのこと。

皆様もご存じのように、国民総幸福感(或いは量) = Gross National Happinessとは、経済発展だけでなく、仏教に基づく文化や伝統、環境などを考慮し、家族の相互扶助、植林の実践など72の指標の達成度で国民全体の幸福度を表します。ブータン政府はGNHの実践を基本政策に掲げていますが、GNHの概念では評価の基準を、

1. 公正で公平な社会経済の発達
2. 文化的、精神的な遺産の保存、促進
3. 環境保護
4. しっかりとした統治

に置き、人間社会の発展は、物質的発展と精神的発展が共存し、互いに補い合って強化して起きるものとしています。

- (付記:「日本全国幸福度」ランキング(調査年度不明))

「生活・家族」、「労働・企業」、「安全・安心」、「医療・健康」の4指標でランク付け。その他に完全失業率、正社員比率、就職希望者数、下水道整備率、幼児保育、医療施設、老人福祉などの指標もある。

★ベスト10: 1 福井 2 富山 3 石川 4 鳥取 5 佐賀
6 熊本 7 長野 8 島根 9 三重 10 新潟

★ワースト10: 1 大阪 2 高知 3 兵庫 4 埼玉 5 北海道
6 京都 7 沖縄 8 青森 9 福岡 10 東京

そのブータンで4年ぶりに幸福度を測る全国調査を行うことになり、日本の専門家チームが加わりサポートするそうです。その団長は筑波大学で幸福度研究をしている高橋義明準教授です。調査結果に期待したいと思います。

経済協力開発機構(OECD)が昨年5月に発表した「世界幸福度ランキング」によると、1位豪州、2位ノルウェー、3位スウェーデン。治安や福祉が安定し、国民の自己満足度が高い国が選ばれました。自己満足度の低い日本は20位、ブータンはOECDに未加盟なので除外です。また英国レスター大のエイドエイアン・ホワイト氏が作成した「世界幸福地図」によると、1位デンマーク、2位スイス、3位豪州でブータンは8位だそうです。

❖ わがLCC論“ほどほど”がいい ❖

いま流行のローコストキャリア(安い運賃の航空会社)の意味ではありません。私のいうLCCは、L=Luxury(豪華)、C=Convenient(便利)、C=Comfortable(快適)をいいます。昨今の生活環境はこのLCCを追及しすぎるのではないのでしょうか。もっと豪華に! もっと便利に! もっと快適に! ほとんどの「モノ・コト」の売り言葉(キャッチコピー)には「究極の…」が謳われているような気がします。際限のない「進歩と発展」が美德だといわれて走り続けた世代に生きて、いささか息切れしてきたのかもしれませんが、“ほどほどに”にいささかの安寧(やすらぎ)を感じます。

かつてのフォルクスワーゲン(愛称カブトムシ)は機能重視を謳っていました。車はA点からB点へ「移動する道具」と定義していました。ラジオやヒーターなどは欲しければ付けろという思想でした。わたしはその考えが好きでした。いえ、今でも好きです。装飾は一切いらないと、シンプルなデザインを好みます。Simple is Beautifulの信奉者です。人生もそのように生きていると、自分ではそう思っています。

❖ ありがとう! ❖

ある日、妻と外出しているとき、電車で若者から席を譲られました。人生で初めてでした。そのときの気持ちは…。

しかし瞬時に“ありがとう!”が言えました。子供のときから親を見てきたからでしょうか。お互いが“ありがとう”と言える環境ができれば世の中はもっと楽しくなると信じています。

私は毎日恩田川に沿って散歩しています。HbA1c(ヘモグロビン エーワンシー:自分自身の血糖状態を知る数値の一つ)低減のための日課です。朝は“おはようございます” 昼は“こんにちは”と擦れ違う人に声をかけます。驚いた顔をする人もいますが、ほとんどは心地よい返事が返ってきます。幸せを感じる瞬間です。

❖ ごちそうさま! おいしかった! ❖

私のHbA1cは6.5です。それ以外は心配ありません。お医者さんは「ジャヌビア50mg1錠で心配なし」と言ってくれますが、散歩は速歩で1日1時間を続けています。

11月で満95歳になった妻の母の要望で、妻は料理に腕を振ります。肉系料理が8割です。

“おいしい、おいしい”と沢山食べる老人を前に、私もお腹いっぱい食べます。戦後の食糧難に育っただけに食べられることの幸せを毎日感じています。最後にひと言「ごちそうさま! おいしかった!」と言うのを忘れません。

❖ わが幸福論 ❖

人間の本能からくる「欲望」には際限がない。自己の運命(置かれている立場)に従い、その“際”を認識して“ほどほど”のレベルを知ること。その範囲でそれぞれの欲望をどれだけ満たされればいいのかを考え、その状態に納得すること。これはあくまで自己の問題で他人と比較は厳禁だ。

❖ 最後に ❖

私が影響を受けた偉人の名言(教え)を載せてみたいと思います。

■まず、古代ギリシャの賢人アリストテレス(前384～322年)

- 欲望は満たされないことが自然であり、多くのものはそれを満たすためのみで生きる。
- 私は敵を倒した者より、自分の欲望を克服した者の方を、より勇者と見る。自らに勝つことこそ、最も難しい勝利だ。

■次は、米国第16代大統領のエイブラハム・リンカーン(1809～1865年)

- 人民の、人民による、人民のための政治
- 何歳まで生きたかは重要ではない。いかにして生きたかが重要だ。

■米国第35代大統領J・F・ケネディ(1917～1963年)

- 国があなたのために何をしてくれるかを問うのではなく、あなたが国のために何を成すことができるかを問うてほしい。

■最後に、わが心の師である孔子。論語の全てが教えだと思いますが…

- 死生有命、富貴在天、君子敬而無失、与人恭而有礼、四海之内、皆為兄弟也(人が生まれるのも死ぬのも天の定め、富貴を得るか得ないかを決めるのも天だ。あなたに兄弟が有るのも無いのも天の定め。行いを敬い、過失無く、人と交わりうやうやしく礼儀を守っていたら、世界中の人全部が兄弟となるでしょう)

フィリピン滞在記 ②---バギオの日系人社会を訪ねて(続)

為我井輝忠

前回、バギオを訪ねて、日系人の方々にお会いしたことを報告したが、日系人と言ってもバギオとその周辺に具体的にどのくらいの方が住んでいるのかわからなかった。そこでアボン(日比親善友好会館)の職員の方にお聞きすると、次のような数字を教えてくださいました。

1世(日本国籍を持つ者)	10人
2世	602人
3世	2,003人
4世	3,414人
5世	1,419人
6世	47人
合計	7,495人

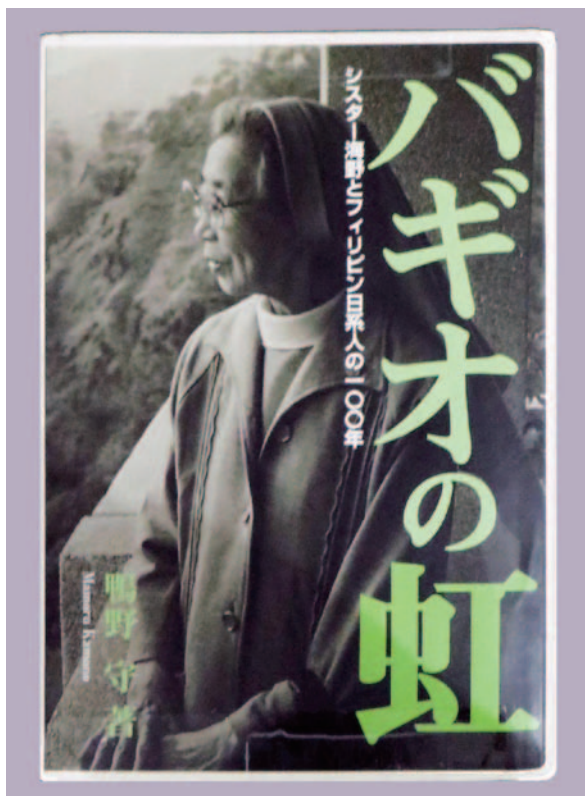
この数字によると、1番多いのは4世で、この世代だけで45%を越えている。これに5世と6世と

を合わせると優に65%以上が昭和後半から平成以降の新しい世代と言える。

今回、アボンで東地初子(ジュリエッタ・ロカノ)さんにお会いすることが出来た(前回簡単に紹介したが)。彼女は1941年4月生まれで、現在73歳であるが、父は和歌山県出身の日本人で、母親はフィリピン人、そして彼女は2世になる。兄2人と妹が1人いた。戦争中、彼女は父親と母親、妹の4人で山中を逃げ回り、終戦と共に故郷に戻って来たが、父親は日本に強制送還され、残された家族はハボン(日本人)と蔑まれた。苦汁に満ちた長い生活が続いた。

次男は日本軍の軍属として徴用され、終戦時に民間人への暴行、虐待、殺害を理由に山下泰文将軍と大田清一大佐(マニラ憲兵隊長)と共に処刑された。

長男は進学のために和歌山の実家に戻っていて、終戦時には日本にいたため長いことフィリピンに残



今回多くのことを教えられた『バギオの虹』(鴨野守著、2003年2月20日発行)



日系人の5世・6世の方々



アボン内にある、シスター・テレジア・海野記念ホール

された家族と会うことが出来なかった。彼は家族はもう死んだものと思いこんでいたが、シスター海野から生きていると知らされ、フィリピンを訪れ再会を果たした。

彼女から聞いた話は以上のようなことであったが、長い間日系人であるが故に苦労されたことは、多くのこの地に住む他の日系人と全く同じで、長い間の苦労を思うと言葉に詰まってしまった。

前回シスター海野のことは詳しく述べたが、彼女がバギオの日系人について初めて知ったのは、たまたま健康上の理由でバギオにやって来た時のバスの中で、「あなたは日本の方ですか。このベンゲット道路は、かつて日本労働者が出稼ぎに来て、尊い犠牲を払いながら完成させたものです」と話しかけられた時だった。この話を聞いてシスター海野は、バギオに留まり、日系人の子孫を探そう、という強い思いを突きつけられ、ようやく最初の日系人に会うまで3カ月もかかった。

しかし、彼女のこうした行為は単に日系人を探しだそうとした衝動的な考えによるものではなく、戦争時に日本軍がフィリピンに与えた傷跡を癒したいという思いがあった。そんな彼女を触発したのが日系人の存在であった。

1972年バギオで初めて会った日系人が大久保さだえ(カタリナ・プーカイ)さんであった。さだえの呼びかけでシスター海野のもとへ集まったのは28



フィリピンの民族舞踊を踊る日系人の子弟たち

人。次いで、2か月後に125家族が参加した。5年後には約1000人がシスター海野の手で探し出された。1年後の1973年、再び日系人たちがばらばらにならないようにと組織化されたのが「北ルソン比日友好協会」である。その中心的なセンターとなっているのが、今回私が訪れたアボン(日比友好親善会館)である。

シスター海野の働きは素晴らしいものがあった。日系人を探し出すだけでなく、戦争で亡くなられた日本の軍人の遺骨を探し出すことにも協力し、その熱意は日本政府をも動かした。

そして最大の功績は、私が思うには日系人たちの子弟に対する教育援助ではなかつただろうか。シスターが日本から日系人に何か援助出来ることはないかと尋ねた時に、彼らの答えは、物質的な援助ではなく子供たちへの教育のための手助けをお願いしたいというものであった。シスターは直ちに行動に移し、日本の知人、カトリック教会、国際友好機関に呼び掛け、大きな成果を上げることが出来た。私の今回のバギオ訪問の際にも、彼女の奨学金援助のおかげで、大学まで行き、生前の彼女には会ったことはないが、大変感謝しているという方にお会いした。今なおシスター海野の遺徳が脈々と生きていることを感じた。フィリピンに来て初めて彼女のことを知ることが出来、これだけでも大きな成果だと言つてよいだろう。

スリランカ・カレーよもやま話

赤岡健一郎 (日本スリランカ武道協会
日本スリランカ文化交流協会)

今回はスリランカに住んでいた時から僕が感じていた、スリランカ・カレーの事を書いてみようと思います。これまで、スリランカ・カレーの事を書けなかったのは、スリランカにはあまりにも多種多様な、ひっくり返してカレーと呼ばれる料理があるので、僕の頭の中で整理が出来なかったからです。今回はスリランカ・カレーの調理方法抜きに話を進めようと思います。

スリランカの代表的な料理は何かと聞かれれば、誰もがカレーと答えると思いますが、実は色々面白い話があるのです。題にあるようによもやま話ですから、調理方法に興味のある方はネットでも調べられますし、「家庭で作れるスリランカのカレーとスパイス料理」という本があるので、そちらでどうぞ。

まず、最初に書かなくてはいけないのは、スリランカの人にとってはカレーという名前の料理は無い事です。レストランに置いてあるメニューには外国人観光客向けに便宜上、チキンカレー、ポークカレー、シーフードカレー等と書いてあります。英語で喋る時にも〇〇カレーと呼びますが、シンハラ語で喋る時には違います。チキンカレーを例にとってみると、スリランカの人にとってはチキンのスパイス煮込みという意味のククルマス・ウゼンジャナと言う名前の料理です。その他にも豚肉のスパイシー料理、各種の野菜料理にも個々に名前が付いています、その理由は此処の食材に最も合うスパイスを使う事にあります。凄いのはニンニクだけを食材にしたスパイシーな料理があります。僕も一度食べた事がありますが、スパイスのせいかなニンニク特有の匂いは殆どしませんでした。聞いたところでは、この料理は体力の落ちている時に食べる料理のようです。この後は話を進めて行く上で不便なので、〇〇カレーと称します。

日本で一般的なカレーと言えば、肉類やシーフード等をジャガイモやタマネギ等の具材と一緒に炒めたり、煮込んだりして作ります。スリランカ・カレーでは全く異なります。例えばチキンカレーであれば、トマトと玉ねぎを加える事はありますが、基本的には野菜等の具材は一切加えません。チキンをニンニクやその肉に最も合う各種スパイスで炒めたり煮込ん

だりするだけです。出来上がってお皿に盛ると、本当にチキンとスープしかありません。ポークやビーフも同じですね。シーフードも同様に海老は海老だけで料理します。カニやイカ、マグロやサワラ等を食べますが、個々の種類の食材だけを調理します。次は食事の方法です。

これらの個々に調理した数種類のカレーと大量のご飯をテーブルの真ん中に置きます。先ずはお皿にご飯をよそい、次に数種類のカレーをご飯にかけます。更に付け合わせとして、小麦粉を練って油で揚げたパパダンと呼ばれるお煎餅状の物や、ココナツの果肉を唐辛子とニンニク片、モルディブフィッシュ(発酵させていない鰹節)、ライム汁で和えたポルサンボールを皿にのせます。これから食事が始まります。スリランカの人是指先を使ってご飯と数種類のカレーを混ぜ、パパダンを砕いてこの上にかけてから、指先でご飯を口に運びます。スリランカの一般家庭では普通の食事では魚と野菜のカレーが中心で、肉類を使ったカレーは御祝い事などの晴れの日の食事になります。もし、旅先の家庭で肉料理が出てきたら、大歓迎されていると思って下さい。お米の種類や炊き方、パパダンやポルサンボール等のサイドメニューについては次回説明します。

もう一つ日本と大きく違うのは、カレーの調理時間です。日本では前日から仕込んだ上で、数時間煮込んで完成になります。スリランカではこのように悠長な事は出来ません。何故かと言えば、スリランカでは朝・昼・晩と3食全てカレーを食べるのが一般的だからです。毎食ごとにご飯を炊いて数時間もかけてカレーを調理するなんて事は不可能です。ですから、朝食時にはご主人がお手伝いをする事が多くなります。僕の友人家族の多くは朝食にはご飯よりもパンを食べています。この朝食用のパンを買いに行くのがご主人の毎朝の日課、子供も一緒に連れて行きます。

集落の雑貨屋さんまでパンを買いに行くのに付き合った事があります。パンを買いに行く友人を見つけると、ちょっと立ち話。歩きながら喋ればと思うのですが、スリランカの人には急ぎません。ひとしきり喋

って歩き始めても、すぐに次の友人に遭遇、そしてお喋りの繰り返しです。子供は子供で遊び仲間と走り回っています。漸く雑貨屋さんに着いてパンを購入しても、直ぐには帰りません。買うわけでも無いのに店にある雑貨を物色し始めます。家を出るのが随分と早いなと思いましたが、これでは時間が掛かるはずです。恐らく、家では邪魔者がいないので、奥様の仕事がかどっている事でしょう。朝食後に出勤したご主人や学校に行った子供が、昼食を食べに一端帰宅する家も結構多いので、奥様は家族を送り出して暫くすると昼食の準備です。朝食を作る時に一緒に

作ってしまえば効率が良いのに、とお思いの方もいるでしょうが、そうはしません。理由は、スリランカ・カレーの命はスパイスの香りだからです。僕なんかは翌日食べるカレーも好きですが、スリランカでは朝食でカレーが余れば捨ててしまいます。スパイスの香りが飛んでしまった為です。昼食の為に一時帰宅出来ない家族には、昼食時間に合わせて自宅から温かいお弁当を届けるサービスもあるそうです。

日本で初めてカレーを食べたのは福沢諭吉である、という説があるそうです。それらは次回に紹介しましょう。

【私のスリランカ・カレー体験】 田井光枝

私が初めてスリランカ・カレーを味わったのは、現在‘わんりい’会員でもある為我井輝忠氏が、「日本スリランカ文化交流協会」を立ち上げていて、その活動の一環として開催の「スリラン・カカレー講習会」に参加したのが初めてだった。今でも保存されているその時のレシピには開催年が2000年とある。

‘わんりい’の会も、会開始以来、中国料理ばかりでなく、アジア各国から来日在住しているアジアの人たちを講師に自国の料理を紹介してもらおう活動をしばしばして、ひところは世界のカレー料理の講座を試みたいと、インド・カレーに始まって、ネパール・カレー、タイ・カレー、インドネシア・カレーなどの講習会を開催していた。「日本スリランカ文化交流協会」開催のスリランカ・カレーの講習会は、私のカレー料理のレパートリーを広げる機会だった。

さて、講習会に参加はしたもののカレーのイメージとは大分異なった。チキン・カレー、フィッシュ・カレー、ダール・カレーといろいろなカレーが矢継ぎ早に講習されるのだ。隠し味に鰹節？を使うのもびっくりした。2012年春、‘わんりい’の会でも、ご夫君の仕事の関係で来日在住のスリランカ女性・カジニさんにスリランカカレーの会の講師をお願いして「スリランカ料理の会」を開催した。とても美味しくその後、オクラのカレーなど、教えて頂いた料理の何種類かを単品で作ることはあって、なるほどスパイシーな香りはインド・カレーやネパール・カレーと同じようだが、やはりカレー料理としてのイメージとかけ離れていた。

実は、インド男性と結婚された女性からインドカレーを教えてもらって以来、カレー料理は私の自慢で、私の場合、「カレーを作るぞ〜」と決めると、気合を入れて3日前くらいから準備が始まるのだ。赤岡氏の今度の文章にもあるように最低でもことごとと数時間は掛けて煮込む。煮込むと

ころにこそカレー料理の神髄があると思い込んでいた私は、ネパール・カレーの講習会のときも、いともあっさり煮込んで「ハイ、出来上がり」でびっくりだったが、スリランカ・カレーは、材料とスパイス類の準備が整えばもう99%は仕上がっているといっておくくらいで、しかも同時進行で何種類ものカレーの鍋が並ぶのだ。

赤岡氏と一緒に「日本スリランカ武道協会」を立ち上げているスリランカ人のシリさんに招かれたカレー・パーティの時も、15種類を超えるカレー料理が並び、ご飯をよそった自分の皿に好みのカレー(?)を何種類かのせて皿の上でかきまぜて食べる。今回の赤岡氏の文章で、本来、名前からして実はカレーではないことを知った。これまで、なんとなく納得行かなかったのが吹っ切れた。ビバ! スリランカ・カレー!!



‘わんりい’のスリランカ・カレー講習会より(2012年4月)かじきまぐろのカレー、ダールカレー、オクラのカレーと人参のサラダを盛り付けたところ。

留学生たちと日本料理を作ろう

於：まちだ中央公民館・調理室 2014年12月8日(月)

留学生：6名、中国出身会員：2名、日本人会員：8名(講師を含む)

留学先に日本を選んだ若者たちに、日本の家庭料理の作り方も知って味わって貰おうというこの企画

は、彼等との日頃の活動の中で思いつきのように急に持ち上がったものでした。まちだ中央公民館・調理室の空きを調べたところ、12月8日(月曜日)が空いており、12月なら大学はもうお休みかと企画を進めたところ、留学生たちはまだ授業があるとのこと。それでも、午前中から早稲田大学大学院女子留学生・韓旭(中国山東省)と桜美林大学の男子留学生・ジェイソン・プア(マレーシア)さんとジャンケート・カセムサック(タイ)さん3名に、'わんりい'中国語勉強会講師の郁唯先生とこの夏以来'わんりい'の活動に積極的に関わってくださっている新会員の崔貞(大妻大学講師)さんお二人が加わって下さり、午後は授業を終えた国土館大学の女子留学生・戴沢宇さん、劉嘉琦さん、鍾嘉辰さん(それぞれ中国深圳市)の3人も参加、先ずは当初の目的に添った活動になり、我々日本人も、ポピュラーながらなんだか面倒そうで敬遠の日本家庭料理と一緒に作りました。



料理のデモをする講師

講師は為我井由美子さん。メニューは茶碗蒸し、白和え、黒糖羹の3品とキノコと銀杏のおこわ。「簡単で美味しく」をコンセプトにした日本の家庭料理の作り方は、実際に目から鱗の容易さで、実は日本家庭料理ながら敬遠していたメニューも「これなら私たちもできる」と、世話役の日本人会員達にもいろいろ学ぶことの多い有意義な講習会でした。

特に有意義と感じたのは、今回参加された留学生たちの在籍校が、早稲田大学大学院、国土館大学・桜美林大学と3校で、中国ばかりでなくタイ、マレーシアからの学生もおり、しかも、参加の一人から「大学が異なっても交流出来る場を作りたい」と提案があったことです。

これまで、留学生同士でも、学年・出身校が違っても、交流が少ないことを知って物足りなく思っていました。この6名の若者達は、自分達の思いを早速実行に移して、講習会后、皆でカラオケに行く相談が纏まっていた。これを機会に、彼らの交流の輪が広がって行けばよいと思ったことでした。

これまで、留学生同士でも、学年・出身校が違っても、交流が少ないことを知って物足りなく思っていました。この6名の若者達は、自分達の思いを早速実行に移して、講習会后、皆でカラオケに行く相談が纏まっていた。これを機会に、彼らの交流の輪が広がって行けばよいと思ったことでした。



レシピと見比べながら講師の手元を見る

移して、講習会后、皆でカラオケに行く相談が纏まっていた。これを機会に、彼らの交流の輪が広がって行けばよいと思ったことでした。

移して、講習会后、皆でカラオケに行く相談が纏まっていた。これを機会に、彼らの交流の輪が広がって行けばよいと思ったことでした。



さあ、頂きましょう!



日本料理について、その種類や箸の作法を説明する

恒例！'わんりい'新年会日取り決定！！

!!! 2015 'わんりい'新年会・シュワンヤンロウで新年を祝おう!!!

場所：麻生市民館・料理室（小田急線・新百合ヶ丘下車北口3分麻生総合庁舎内）



2012年2月8日（日） 11：00～14：00

- 定員：先着40名（'わんりい'会員と関係者のみ。お早めにお申込下さい）
- 参加費：1500円（会場費 シュワンヤンロウ材料及び福引景品購入）
- 申込：メール/wanli@jcom.home.ne.jp TEL/FAX：042-734-5100

◆わんりいの催し **ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう!**

あなたも私も笑顔が美しくなる! 身体力を抜いて、気持ちよく発声しよう!!

- ▲まちだ中央公民館・6F視聴覚室
- ▲2015年1月27日(火)、2月24日(火)
- ▲時間：10:00～11:30

◆動きやすい服装でご参加ください

- ▲1月の練習歌「おてもやん」
- ▲'わんりい'の新年会で歌おう!
- ▲講師：Emme(歌手)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：15名(原則として)



- ◆申込み：☎042-735-7187(鈴木)
- E-mail：wanli@jcom.home.ne.jp(田井)

◆わんりいの催し **中国語で読む・漢詩の会**

漢詩で磨く中国語の発音! 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!



- ▲場所：まちだ中央公民館・学習室7
- ▲月日：2015年1月18日(日)/2月15日(日)
- ▲時間：10:00～11:30
- ▲講師：植田渥雄先生
(現桜美林大学孔子学院講師)
- ▲会費：1500円(会場使用料・講師謝礼など)
- ▲定員：20名(原則として)

*録音機をお持ちの方はご持参下さい。

- ◆申込み：☎090-1425-0472(寺西)
- E-mail:ukiuki65@yahoo.co.jp(有為楠)

◆わんりいの催し

ルーフティエン **雲南省昭通市魯甸県地震被災地を訪ねて 参加無料**

町田市民フォーラム3F・視聴覚室 2015年1月12日(祝) 14:30(開場14:00)～16:00

講師：日本雲南聯誼協会理事長・初鹿野惠蘭氏



被災者キャンプで被災者の話を聞く初鹿野惠蘭氏

日本雲南聯誼協会理事長の初鹿野惠蘭氏は、現地の教育復興支援金募金実施に当たって、現地がどのような支援を必要としているか考察目的で10月現地を訪れました。

当時、被災道路が復旧しておらず、被災地中心部を訪ね

ることはできませんでしたが、被災現地にごく近い被災者キャンプを訪ね、被災者より直接現地の被害状況を伺いました。その折に撮影の写真を上映し現地の様子を紹

介するとともに、雲南省少数民族の教育支援を続ける初鹿野氏の、熱い胸の内をお話して頂きます。

【当日のプログラム】

- ①昭通魯甸地震の被害状況
- ②10月の視察報告
- ③中国・雲南省からの東日本大地震支援について
- ④なぜ日本雲南聯誼協会が支援するのか

- 定員：28名
- 問合せ：☎042-734-5100(わんりい)
- E-mail:wani@jcom.home.ne.jp



【2015年1月と2月の定例会】

- ◆1月定例会：1月26日(月) 2月定例会：2月19日(木) 13:30～ 三輪センター・第3会議室
- ※2月は恒例で'わんりい'はお休みです。

時に刻む木痕「中国新徽派版画展」
日中友好会館美術館

http://www.jcfc.or.jp/blog/archives/5910

〒112-0004 文京区後楽1-5-3都営大江戸線・飯田橋C3出口徒歩
1分/JR総武線・飯田橋駅東口徒歩7分他

2015年1月22日(木)～2月25日(水)
10:00～17:00(月曜日休館)

民族色濃厚な、また時代を反映
する新鮮な作風など、中国画と
版画や東洋と西洋の芸術の融合
を試みる新徽派版画家たちの、
1980年代から現在までの代表
的作品50点を展示します。



- **開幕式** 2015年1月22日(木) 15:00～
- **アーティストトーク** 開幕式終了後より約30分
予約不要 参加自由
- **講演会&茶話会**
2015年2月5日(木) 14:00～16:30(要予約)
演題「版画家から見た中国版画事情-中国での10年
の指導を通して」 講師:銅版画家 鹿取武司氏
場所:日中友好会館ホール
定員:50名、500円(資料とお茶代込)
- **春節ミニコンサート** 入場無料 自由参加
サクソ奏者・張誠(東京芸術大学大学院在籍)
2015年2月19日(木) 14:00～(約30分)
- **プレゼント抽選会**
2月18日(水)、19日(木)、20日(金)、21日(土)、
22日(日)の入場の方に抽選で中国グッズ進呈
主催:(公財)日中友好会館/安徽省美術家協会
問合せ:日中友好会館 文化事業部 担当:甘(カン)
☎ 03-3815-5085 E-mail: bunka@jcfc.or.jp

初心者のための水墨画教室

〈鶴川水墨画教室〉体験のお誘い

生徒のレベルと個性に応じた適切な指導を体験して
みませんか。気楽にご参加ください。

- 講師:満柏(◎日中水墨協会会長)
- 場所:鶴川市民センター(駐車場有)
〒195-0062 東京都町田市大蔵町1981-4
- 曜日・時間:毎月第2、第4(月)
午後2:00～4:00
- 体験参加費:1000円
見学:無料
- 問合せ:野島
☎ 042-735-6135



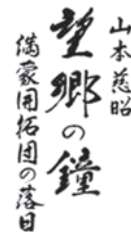
今年がよい年でありますようにお祈りします

映画「山本慈昭 望郷の鐘～満蒙開拓団の落日」

2014年、102分、現代プロダクション ☎ 03-5332-3991

(監督・脚本・製作総指揮*山田火砂子)

中国残留孤児の肉親探しに尽力し「中国残留
孤児の父」と呼ばれた実在の人物・山本慈昭
の波瀾万丈な人生を映画化。原作:児童文学
作家・和田登の小説「望郷の鐘 中国残留孤
児の父・山本慈昭」主演:内藤剛志



【上映スケジュール】

- **シネマトート新宿** 2015年1月17日(土)～
モーニング上映 時間問合せ ☎ 03-5413-7711
- **なかのZERO視聴覚ホール**(定員:100名)
2015年1月10日(土)/17日(土) 14:00～
1月31日(土) 18:30～ ☎ 03-5340-5000(代)
- **江東区総合区民センターレクホール**(300名) 03-3637-2261
2015年1月9日(金) 19:00/1月10日(土) 9:45

第2回桜美林大学孔子学院 漢詩朗読・創作発表会

桜美林大学淵野辺キャンパス 2F 202教室
2015年1月31日(土) 13:00～17:30

- 13:00～14:00
漢詩講演会「漢詩のことばー詩語の諸相」
講演者:佐藤保氏(お茶の水大学名誉教授、元同学学長)
NHKラジオ「漢詩を読む」講師 他
- 14:15～17:00 朗読・創作発表大会
※終了後、懇親会有り(希望者 会費:3000円)
- ◆ 詳細問合せ: E-mail: kongzi@obirin.ac.jp
☎ 042-704-7020(桜美林大学孔子学院事務局)

'わんりい' 200号の主な目次

- わんりい会報が200号になりました……………2
- 論語断片③「^{あやま}てば ^{あらたむ}るに ^{はばか}に ^{なか}に
- 北京雑感(91)小学校入学準備……………4
- 諺・慣用句(36)「洛陽の紙価を高める」……………5
- 媛媛讲故事(70)「^{かしのへき}和氏璧」IV……………6
- 城市めぐり(39)「蘇州市」IV……………8
- 中国の笑い話(21)……………10
- 日本探検記(19)「刀削麺コーナー」……………11
- 詩人尹世霖の童詩の世界⑨……………12
- 日本人は本当に幸せか……………14
- フィリピン滞在記②バギオの日系人社会を訪ねて……………16
- スリランカ(84)スリランカ・カレーよもやま話……………18
- 私のスリランカカレー体験……………19
- 活動報告「留学生と日本料理を作ろう」……………20
- 'わんりい' 掲示板……………21・22